

まんまで えーやん

定時制・湊川高校の春

③

年齢の割に幼く見える手の爪は、きれいに切りそろえられていた。

「伸びていると、調理がしにくいから」

3月に湊川高校を卒業した韓国人のジュンさん（仮名）（18）。父を母国に残し、約3年前に母と来日した。日本の調理師免許を取るためだった。

「（就職難で）韓国で若い人が働くのは大変。日本で働きたいです」

来日当時、ジュンさんが話せる日本語はいさつ程度。入学後しばらくは、先生や同級生の口元を見つめるだけだった。今片言の日本語で夢を語る。

韓国、ベトナム、フィリピン、中国……。教室を見渡すだけでは気づかないが、湊川にはさまざまな国の生徒が通う。外国にル

ルーツ

ーツを持つ生徒もいる。学校は教材へのルビ振りや習熟度別の少人数授業などで、そんな生徒たちを支える。

「日本は外国人苦手な人が多いです」。言いにくそうに切り出したジュンさん。駅や電車で韓国語を話すと驚いたような視線を向けられたり、隣の席から立たれたり。それでも学校は楽しかった。

内向的で、友人を積極的につ

くる性格ではなかったが、「先生のおかげで勉強できた」。学校への足取りは軽くなり、うつむく日は減っていった。

4月から調理師学校へ通う。「日本ももっと柔らかな国になつてほしい、ここ（湊川高）みたい」

卒業の日。ジュンさんのこの言葉に、担任だった金大樹先生（30）が頬を緩ませた。「教師やつててよかったです、本当に」

神戸市出身の在日コリアン。ラグビーに明け暮れた青春だった。恩師に憧れ、同じ道へ。「自身のルーツを大切に」という一言に背中を押され、大学に6年通って保健体育と朝鮮語の教員免許を取った。湊川では朝鮮語を教える。

着任した6年前、教室の様子に面食らった。心を閉ざす子、授業中席を立つ子……。何より全日制より生徒と接する時間が少ない。どうしたら。頭を抱えた。

目指したのは「近所のお兄ちゃん」。休憩時間も教室を離れず、生徒に話しかけた。「簡単には言葉にできないような、事情を抱えた子もいる。でも、みんなかわいいんです」

ここ数年の韓流ブームも授業に役買っているそう。英語には苦手意識を持った子が積極的に学び、朝鮮語を学びたいと入学してくる子も出てきた。

4月、また新しい生徒たちを迎える。（末永陽子）



今春卒業し、日本で調理師を目指す＝神戸市長田区寺池町1（撮影・中西幸大）

アジア出身の生徒も支える